

2017年2月25日(土) 午後1時30分～4時(開場 午後1時)

さがみはら生物多様性シンポジウム

“やって、見て、考える”

生物多様性は自然と人と地域をつなげるキーワード

地域と大学、地域と企業、地域と若者・・・
生物多様性を守り、次の世代へとつなげていくための取組には、
様々な連携のカタチがあります。

地域の身近な自然の中で、様々な立場の人が集まり、
楽しく活動していくためには、どんなことからはじめればいいのか。

本シンポジウムでは、これらの事例を紹介し、
活動のひろがりについて、共に考えたいと思います。

ー プログラム ー

- 13:30 開会 主催者あいさつ
さがみはら生物多様性ネットワーク
相模原市
- 13:40 第一部 基調講演
🌱 生物多様性を大事にする社会の雰囲気作り
倉本 宣さん
(明治大学農学部教授)
- ～・・・～ 休憩 ～・・・～
- 15:00 第二部 活動事例発表
🌱 家具屋さんの森づくり「道正山るーたんの森」
渋谷 金隆さん
(株式会社家具の大正堂代表取締役社長)
- 🌱 多様な主体の連携と水源地の生物多様性
村山 史世さん
(あざおね社中会長/麻布大学生命・環境科学部講師)
- 15:40 質疑応答
- 16:00 閉会

講師のご紹介

くらもと のぼる
倉本 宣 さん (明治大学農学部教授)



1955年生まれ。生態学を学んだものの都立公園のニリンソウの保全活動がおもしろくなって、博士課程を中退し、東京都庁に造園職として入庁。公園管理・自然保護を担当。博士(農学)。

96年より明治大学農学部専任講師。2004年明治大学農学部教授、現在に至る。緑地学、保全生物学、生態工学専攻。

主な著書『雑木林をつくる』(百水社・1998年)、『タンポポとカワラノギク』(岩波書店・2001年)、『生物多様性緑化ハンドブック』(地人書館・2006年)など。

目黒区の生物多様性地域戦略策定に参加。千代田学として研究室の学生と一緒に行った生物多様性のかんたん調査の普及活動がちよだ生物多様性大賞に選ばれました。

相模原市との関わりでは、相模川河川敷に自生する絶滅危惧種「カワラノギク」の調査や木もれびの森での樹木調査などを行なっています。さがみはら生物多様性ネットワークにおいては検討会メンバーとして設立時からご参加いただいています。

事例発表団体のご紹介

株式会社 家具の大正堂

南区上鶴間本町の本店店舗裏の1500㎡の社有遊休地の斜面で、森づくり活動を行っています。平成25年7月から活動を開始し、4年目に入りました。斜面の土留め、遊歩道、植樹で使う杭などに、お客様からお引取りした不要家具を活用しており、家具屋さんならではの森です。



この森を「道正山るーたんの森」と名付け、地域の方、ご来店のお客様に常時開放しています。活動主体は、社員ボランティアと地域ボランティアです。地域団体の「境川の道正山河畔林を守る会」と連携して活動を行なうほか、公益財団法人相模原市まち・みどり公社からは、苗木のご提供をいただいています。

森の一般開放、地域団体との連携など地域に根ざした活動として、また、自社事業の特徴を活かした取組が評価され、「平成28年度持続可能な社会づくり活動表彰」にて「環境大臣賞」を受賞しました。

あざおね社中

あざおね社中は、相模原市緑区の青根地区において麻布大学の学生・教員と地域住民により、休耕田の復活と、そこを拠点とした生物多様性の把握、自然観察会、環境学習、環境まちづくりを行っています。環境省モニタリングサイト1000里地調査や、青根の植生・見どころ等を示した「里山グリーンマップ」の配布、地域在来作物の栽培や伝統行事への参加も行っています。



麻布大学の学生が中心となり、地域の自治会、小学校、市役所、教育研究機関など、多様な主体の連携により、生物多様性の保全や普及啓発の効果が期待される取組として、国連生物多様性の10年日本委員会の「認定連携事業第9弾」に認定されました。